

中小企業も特許戦略を

群嶺テクノセミナー 羽鳥弁理士が講演



中小企業の特許戦略について語る羽鳥弁理士

群馬工業高等専門学校(前橋市島羽町)の産学交流組織「群嶺テクノ懇話会」(船沢恭一会長)の主催するテクノセミナーが6月28日、同校で行われ、羽鳥国際特許商標事務所(羽鳥巨弁理士)と中村希望弁理士が講演し

た。中小企業における特許戦略の重要性が高まるなか企画したもので、企業関係者ら約50人が参加。特許制度の現状や出願状況などについて学んだ。

会場ではまず県内唯一の女性弁理士で同校の卒業生でもある中村弁理士が特許の基礎知識について解説。その後、羽鳥弁理士が「県内企業の特許出願状況と中小企業に有利な特許制度の活用方法について」

をテーマに講演した。羽鳥氏は講演のなかで、県内企業の特許出願動向について「直近のデータで年間約2300件。ものづくり立県らしく、非常に多いと言われている」と説明。ただ、「中身を見るとパチンコ3メーカー(SANKYO、平和、ソフイア)などを中心に大手企業の出願が大半、中小企業は年間500件程度と隣県と変わらないレベル。もっと中小企業の出願が増えるべき」と指摘した。

また、昨今増えている特許の共同出願については「知恵を出し合い、いいものができるというメリットはあるが、お金をめぐるトラブルも発生しがち。民間が、学や官と共同で行うのはいいが、民間同士で行うのは個人的にはおすすめしない」と強調。今後の中小企業

の知的財産戦略における課題については、早期審査請求やIPDL(特許電子図書館)の有効活用を挙げた。